

水俣病の教訓を世界に発信 公害の原点の地から 独自開発した技術を提供



あかぎ ひろかつ
赤木 洋勝 Hirokatsu Akagi
有限会社国際水銀ラボ 所長
Director, International Mercury Laboratory Inc.

鹿児島県枕崎市出身。岐阜薬科大学大学院で学び、厚生省国立公衆衛生院（現国立保健医療科学院）に入省。カナダ国立科学研究所の客員研究員などを経て、1981年、国立水俣病総合研究センターに赴任。2001年水俣で開催された第6回国際水銀会議では組織委員長を務める。2004年退官後、私設研究所「国際水銀ラボ」を設立し現在に至る。インドネシア、ブラジル、タンザニア、中国、ベトナム、スロベニア、スウェーデン、カザフスタンなどの水銀分析技術研修や調査、共同研究多数。

推薦者 **田中 明彦** 独立行政法人国際協力機構（JICA）理事長

赤木洋勝氏は、多くの人々の健康を奪い、多大な社会的被害をもたらした公害病のひとつ「水俣病」の原因となった「水銀」に関して、国内だけでなくブラジルをはじめとした海外との共同調査研究や、技術者の育成に長年にわたり尽力してきた水銀研究の国際的権威である。

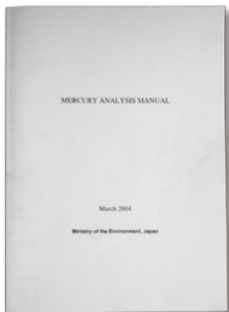
枕崎高校卒業後、岐阜薬科大学大学院を修了し旧厚生省への入省を経て、1981年に国立水俣病総合研究センターに赴任。在職中には、多くの研究者たちとの共同作業のもと、後に「赤木方式（アカギ・メソッド）」と呼ばれる、独自の水銀分析の装置と手法を開発した。この水銀分析法は、広範な各種の試料に含まれる総水銀量のみならず、水俣病の原因物質でもあるメチル水銀の含有量を簡便かつ正確に測定する分析技術で、世界の水銀汚染地域の研究者のあいだでも信頼度の高い水銀分析法とされ、多くの汚染原因や実態の解明に貢献した。

その一例は、1992年の世界的関心事となったブラジル・アマゾン川流域の水銀汚染問題。ここで、開発した水銀分析法は、

現地調査に活かされた。さらに、その調査の適正な成果により、同様の問題を抱える国々から技術協力要請が相次ぎ、JICA研修の受け入れ、国際共同研究などを通して、またJICAの派遣専門家として現地に赴き、水銀汚染の現地調査、人体曝露評価に欠かせない水銀分析手法や分析精度管理の技術移転を中心に国際的な技術協力を行ってきた。

また、世界各国で、石炭火力発電所からの大気汚染や塩素・アルカリ工業プラントにおける水質汚染、金精錬での水銀使用による汚染問題が深刻化し、汚染状況の監視が急務となつていくことに対応。環境省をはじめとした多くの関係者と共に、的確なリスク評価のため、開発した水銀分析法が広く実用に使われるよう、2004年、「水銀分析マニュアル」としてその手法を取りまとめ、世界各国へ提供するに至る。

国立水俣病総合研究センター退職後は、「水銀問題に直面する海外との交流を深めたい」との思いから、研究センター時代の共同開発者などの協力のもと、自宅近くの水俣市袋地区に「国際水銀ラボ」を設立し、赤木方式の測定装置や手法の改良、普及、水俣病発生当時の汚染状況の解明を継続しつつ、2011年からは「JICA草の根技術協力」として、ブラジルを中心にアマゾン周辺諸国との共同実態調査を前提とした技術研修にも取り組んでいる。そして、公害の原点と言われる水俣で「水俣病とは何なのか」を追いつけ、その教訓を次世代に伝えながら世界に発信し続けている。



■水銀分析マニュアル（英語版）



■ブラジルでの水銀モニタリング技術研修中の赤木氏



■アマゾン川での魚類サンプリングを行う赤木氏